



パラソル

Vol.
09

2022 Aug.

くにたち男女平等参画ステーション

- 地域の活動「NPO法人くにたち夢ファームJikka」… p.4
- LGBTユースの居場所「にじーず多摩」開催！… p.4
- 人権講座「いのちを守るといふこと」開催報告… p.5
- 学校への出前講座 開催報告… p.5
- くにたちレインボープロジェクト～「医療者向けLGBTQ講座」開催報告… p.6
- 本の紹介・展示イベントなど 開催報告… p.7
- 出前講座・相談のご案内など… p.8

知ってる？
セクシュアル
リプロダクティブ
ヘルス/ライツ

生理の貧困

特集

私のからだは 私のもの

産む選択
産まない選択

あらためて
理解してみよう
更年期

座談会 みんなで話してみよう！
生理のこと



私のからだは私のもの 座談会 みんなで話してみよう！生理のこと

2022年3月11日、パラソルは座談会「みんなで話してみよう！生理のこと」を開催しました。Youth Terrace（ユーステラス）と協同で企画。悩みを周囲に話す？ どうやったらうまく付き合う？ 男性や周囲の人ができることは？ など話す機会が少ない生理のことを議論しました。



若者がキャリアやライフプランを考えたうえでプロダクティブヘルス/ライツに関する決定を自らの意思でできる社会の実現を目指すためのプラットフォーム。日本医療政策機構(HGPI)が運営。

参加者：進行役2名(ユーステラスアンバサダー学生)、アドバイザー1名(助産師)、参加者9名(高校生3名、大学生4名、一般2名)

① 生理のこと、周囲と話す？

- 参加者：全く話さないですね。
 参加者：私は女子校出身なので、そのときは気軽に話していました。
 参加者：理解してくれる人なら話せるけれど、祖母に「生理は我慢するもの」と言われたりして、あまり良い思い出がありません。
 参加者：政治家の方が「生理の貧困が問題なら、月経カップ*を使えばいい」と安易に言っていたことに腹が立ったのを思い出しました。

*月経カップ…生理中、膈内に挿入して経血を溜める生理用品。繰り返し使えるメリットがあるが、管理の手間やさまざまな理由から日本では利用する人がまだ少ない。

② 男性は、生理をどう思う？

- 参加者：なかなか話づらいですね。知ろうとする時点で、結構ハードルは高い気がします。
 参加者：「当事者じゃない」という圧力があるような気がします。
 参加者：話題に出すと他の男性から変なやつだと思われたり、「彼女がいるのか」と茶化されたりと、からかいの対象になるイメージです。
 進行役：きょうだいに女性がいるので何となく学べましたが、それがないと知る機会が少ないですね。

③ どうやって情報を得る？

- 参加者：YouTube や Instagram などの SNS が多いですね。
 参加者：正確に情報を発信している人は増えているけれど、たどり着けている人と、そうでない人の差が出てきている印象です。
 助産師：学校の教科書でも学べるけれど、簡単な説明やコラムしかないのでは、不十分だと思います。



参加者の方が紹介してくれた「性」について学べるサイト



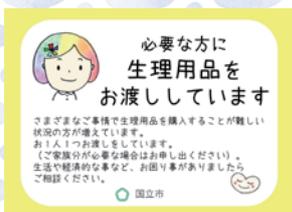
座談会の様子

④ 生理のこと、どう変わっていくと良さそう？

- 参加者：学校の性教育は、男女別々でした。分けることによって、「隠すもの」という認識が生まれてしまっているような気がします。
 助産師：タブー視せず、辛いときは配慮しあい、助け合える社会になるといいですね。生理の場合「生理休暇」はありますが、これと同様にメンタルの調子が良くないときなどでも気軽に休めるような制度があったらいいかもしれませんね。
 参加者：何かを変えようとするとき、公教育や政治をどうするかという大きな話になりがちです。しかし、大きな変化だけでなく企業や身近な環境の中で少しずつ意識と行動を変えていく必要性を感じます。

国立市での取り組み

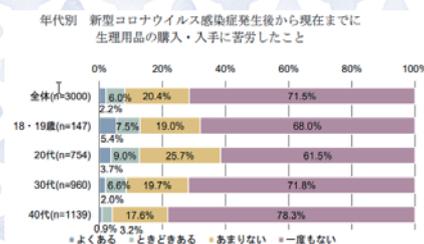
国立市は、コロナ禍で「生理の貧困」が社会問題となったことから、2021年12月に市職員らが参加する「生理研修」を開催。日用品大手のユニ・チャーム社で働く方を講師に招き、基礎知識を学び、配慮の仕方などを話し合いました。また市役所の男性トイレにサニタリーボックスを設置しました。2022年3月からは、さまざまな事情でお困りの方への支援として生理用品の配布を始めています。パラソルも配布先の一つなので、お気軽に立ち寄ってくださいね。



生理の貧困とは

厚生労働省が2022年3月に発表した調査結果によると、コロナ禍で「生理用品の購入・入手に苦労したこと」が「よくある」「ときどきある」と回答したのは回答者の8.1% (244人) となりました。

購入・入手に苦労した理由には、「収入が少ない(37.7%)」「自分のために使えるお金が少ないから(28.7%)」「その他のことにお金を使わなければいけなから(24.2%)」などが挙げられています。



注) %表示の小數第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある
 出典：厚生労働省



開催報告 | 国際女性デー展示「私のからだは私のもの」

パラソルでは、3月8日の「国際女性デー」に合わせて、ミモザの花(国際女性デーの象徴)をモチーフにした展示イベントを開催。テーマは「セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」。なかなか人には言いづらい生理や、産む選択・産まない選択、更年期に関する解説などをパネルで紹介しました。展示した内容の一部を紹介します。

なかなか人には言いづらい「生理」

なかなか人には言いづらい 生理(月経)のこと

生涯経験する月経回数(平均)



・出産回数が増えたこと。
妊娠・授乳期の2年間は月経がないため、子どもを産む回数が多いほど月経回数は減ります。
・栄養状態がよくなり、月経期間が短びたこと

生理の悩みがマンすることが多いんだよね

生理(月経)による症状がある時、仕事のパフォーマンスが普段の半分以下になる人 **45%**

参考：日本医療政策機構「働く女性の健康増進に関する調査(2018)」



生理って、ガマンするしかないの？

婦人科で相談を

漢方薬や、低用量ピルの処方され、症状が改善されることがあります。

フェムテック商品

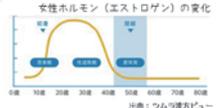
快適に過ごすための商品やサービスが開発されています。



あらためて理解してみよう-更年期

更年期

更年期とは女性ホルモンが急激に減少することで体調不良やこころの不安定など影響が現れる時期のこと。
40代後半頃に多く発生します。



症状は、ほてり、発汗、倦怠感、めまい、イライラ・・・人によってさまざま。

イギリスの「更年期法案」

イギリスでは、「経験や実績を積んだ女性たちが働けなくなることは社会全体の大きな損失だとして「更年期法案」の審議が始まるなど変化を迎えています。医師に対する教育と職場での支援制度の整備を訴えたひとりの女性の署名活動からはじまったそう。

これって更年期？

医療機関に相談を
婦人科では、漢方薬やホルモン補充療法が行われます。体やこころに不調を感じたら、更年期かどうかの判断を自分でせず、身近な医療機関で相談をしましょう。

自分でコントロールが難しい、ホルモンに関わる体調の変化。自分や、大切な人の体とこころのことについて、いま一度大切に考える時期。
ムリせず、ゆっくり、大切に。

産む選択・産まない選択

産む選択

妊娠 出産

望んだ人が望んだ時期に

望んだ時期に妊娠するにあればよいと思うものは？

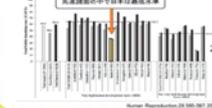
いいえ 53%

職場環境
・休暇を取りやすい職場
・休暇制度がある
・育児後復帰しやすい職場
学校教育
・妊娠に適した時期
・妊娠をする力
・妊娠・出産を含めたライフプラン

参考：日本医療政策機構「働く女性の健康増進に関する調査(2018)」

妊娠に関する知識

<図表3-11-13-4 妊娠性の知識(国・男女)別>

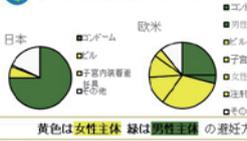


日本は先進国の中で最低の水準。
学校でも学んで欲しい。

産まない選択① 避妊のこと

女性の選択が少くない日本

どの避妊方法を使っている？



黄色は女性主体 緑は男性主体の避妊方法

国際発表「Contraceptive Use by Method 2019」より

女性が主体的に行う避妊法は海外ではいくつか選択肢があります。



・なんでないの？コンドームも知っていますか？
これらの避妊方法は日本では未承認。「安全で日本には世界と同じようなピル避妊法がないのなら女性が使える避妊法を日本でも承認してほしい」と政策提言などを行っています。

産まない選択② 緊急避妊薬

(アフターピル)

緊急避妊薬は性行為の直後に飲んで妊娠を防ぐ薬。

妊娠したかも？今は産みたくない。



避妊に失敗したかもしれないと思ったときや、性暴力の被害にあった時など
妊娠阻止率 性行為から
72時間以内 80%以上
24時間以内 95%以上
(NHK NEWS WEBより引用)

緊急避妊薬を薬局で/医師の処方なしでも薬局で購入できるようにするための運動や議論が進められています。



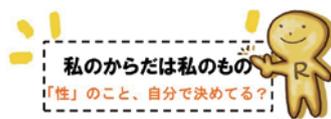
緊急避妊薬を薬局でプロジェクト
18万人の署名がみつきました。

気になるワードを深掘り！

「セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」

「性と生殖に関する健康と権利」と訳されるセクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (Sexual and Reproductive Health and Rights)。頭文字を取り「SRHR」と呼ぶこともあります。性や子どもを産むことなどすべてにおいて本人の意思が尊重されていること、自分の身体に関することは自分自身で決められる権利を意味します。

1994年にカイロで開催された国際人口・開発会議で概念が提唱され、人権において重要なものの一つと認識されています。



自分も話したいと思ったら、ぜひパラソルへお越しくださいね

“パラソルが地域とつながる”新シリーズ。パラソルがいつもの場所から飛び出しているところへ行き、いろんな人に会います。初回は、「NPO法人く にたち夢ファーム Jikka」の遠藤良子さんにお話を伺いました。

—— Jikkaの活動内容について教えてください。

DVや虐待の被害当事者、生活困窮や精神しょうがいなど困難を抱えた女性への支援を行っています。具体的には、相談対応から避難・転宅の支援、役所・病院・裁判所などへの同行支援、家事・育児・金銭管理といった生活支援など、多岐にわたります。困っている事柄は人によって様々ですから、その人の困りごとに寄り添ったきめ細かな支援を心がけています。

行政のDV相談支援は「避難するまで」が主ですが、本当に変なものは「避難した後」です。小さな子どもを連れ、経済的・精神的不安を抱え、知らない土地で生活することになる避難者にとって生活を新たにつくっていくことは困難の連続です。例えば、仕事もお金もない人はアパートを借りることも難しいし、精神しょうがいがあれば家事や育児もままなりません。そうした状況に当事者がたった一人で取り組むのは大変な苦勞なので、一緒に考え、乗り越えます。私たち Jikkaの活動の特徴は、「避難してからの生活再建のための支援全般」と言えると思います。



写真 望月まどか

—— 国立という地域で活動する上で何か意識していることはありますか？

DV被害についてはまだまだ世間の偏見があるため、被害当事者を支援する団体が近所にあると知ると、地域の方々は「大丈夫だろうか」と当初は不安に思われたかもしれません。理解してもらうには場をひらき、当事者と地域の人々が交流することが必要と考え、平日11～16時は「オープンスペース」として運営しています。誰もがお茶を飲みに来られる場なのですが、これはDV被害者支援団体としてはかなり珍しい試みです。他にも、「手仕事の日」「ハンドメイド部」さらに年2回の「ガレージセール」や「手作り市」などでも、積極的に地域の方々と交流しています。また昼食の提供もしており、当事者と行政の方（ケースワーカーや訪問看護の方など）と一緒にごはんを食べたりもします。当事者・地域・行政の3者が交わり何かを一緒にすることで、お互いに新たな発見があります。こうした「場の力」で様々な相乗効果が生まれています。当事者には、「DVや虐待被害は隠すようなことではない、堂々としていていい」と伝え続けることで、生きる力を回復してもらいたいと思っています。





NPO法人く にたち夢ファーム Jikka
 国立市西2-11-28
 TEL 042-511-5812
 平日11:00～16:00
<https://www.jikka-yume.com>



LGBTユースの居場所「にじーず多摩」開催！

LGBTや「そうかもしれない」ユースの居場所が、多摩地域8市(国立、清瀬、国分寺、多摩、東村山、日野、府中、武蔵村山の各市)の連携により定期開催されています。運営はLGBTの子ども・若者(10代～23歳まで)の居場所づくりを行う団体「一般社団法人にじーず」さん。初回の会場は国立で、2022年5月29日にパラソルのある「国立駅前く にたち・こくぶんじ市民プラザ」にて開催されました。当日、参加者はカードゲームで遊んだり、のんびりと過ごして、時には楽しい笑い声も聞こえました。今後も月に1回程度、連携市のいずれかの会場で開催予定です。開催する会場や日程は下記の公式HPやSNSをチェックしてください。**参加は無料、事前申込制**です。

📍 <https://24zzz-lgbt.com> ✉ 24zzzmail@gmail.com
 📞 24zzztw 📷 24zzz_ig
 お申し込みはURLか右のQRより <https://onl.sc/e7Q3zP3>

お申し込み



参加者が「にじーず」の様子を描いたイラスト＝「にじーず」提供

「いのち」を守るということ ～アウティングについて考える～

パネリスト

- 松岡宗嗣氏：ライター。政策や法制度を中心とした性的マイノリティに関する情報を発信。一般社団法人fair代表理事。
- ハン・トンヒョン氏：日本映画大学准教授。国立市人権・平和のまちづくり審議会委員。
- 吉田徳史氏：国立市市長室長

「一橋大学アウティング事件（2015年）」をきっかけに、性的指向や性自認の暴露は「不法行為」であり、「いのち」に関わる問題だという認識が広まりました。国立市では、2018年に「女性と男性及び多様な性の平等を推進する条例」を施行。日本で初めて「アウティング」を禁じることを明記しました。そして2021年11月から2022年1月の3か月間を「くにたち人権月間2021（テーマはかたる・かんがえる・かかわる）」として、人権をテーマに多くの催しが行われました。

この期間中、パラソルでは「条例から3年。今こそ『アウティング』についてしっかり考え、話し合う場を作りたい」と、国立駅前にたち・こくぶんじ市民プラザにてトークイベントを開催。興味を持った方々が多数参加していただき、パネリストの熱い思いが伝わる、貴重な時間になりました。

「アウティング」をテーマにした著書を持つ松岡さんは、ご自身の体験などを交えてその問題点について語り、ハンさんは、性的マイノリティに限らずいろいろな場面で暴露行為が人の尊厳を脅かすことがあると話されました。質疑応答もあり、共に考えることができたトークイベントでした。

パラソルでは、市民の方々と様々なテーマについて一緒に考える機会をこれからも数多く作っていきます。



松岡宗嗣さんの著書を手し、左からハンさん、松岡さん、吉田さん。



『あいつゲイだってアウティングはなぜ問題なのか?』

一橋大学アウティング事件の控訴審判決から1年。「アウティング」がなぜ問題なのか？著者自身の経験や、事例をあげながら丁寧に語られていく。国立市の条例についても触れられている。



参加者の感想

- 興味のあるテーマでしたが、どこでだれに聞けば良いのかわからなかったのが、良い機会をありがとうございました。
- 松岡さんとハンさんのやり取りが、エネルギーで聞いていてとても勇気づけられました。
- 「相手に背景がある」と意識しながら話そうにしたい。
- 様々な切り口で「アウティング」について考えるきっかけとなりました。
- 人としての尊厳が命に直結するという、という言葉が印象に残った。

開催報告 | 学校への出前講座

学校に行ってきました

2022年3月17日、国立市立国立第五小学校に伺い、子どもたちと一緒に「ジェンダー平等」について考えました。コロナ禍ということもあり、低学年、中学年、高学年のそれぞれ代表1クラスで授業をし、他のクラスはオンラインで中継しました。どの学年も「ジェンダー」について関心があり、様々な発言がありました。自分の意見を皆の前で堂々と話すことができる子どもたちの姿はまぶしかったです。

学校で一緒に考えることは、私たちにとっても多く気づきがあります。「ジェンダー平等実現に向けてどうしたらよいか」の質問に、「学校で月に一回、ジェンダーの勉強をする時間を作る」「子どもは分かっているから、大人に教えてあげたい」「目標を皆の見るところに貼る。例えば国立駅とか」など、たくさんのアイデアが出て、希望を感じられる時間でした。これからも学校へ行く機会が増えることを楽しみにしています。

「ミモザウィークにたち」「くにたちレインボー月間」に展示した小学生の名言



出前講座のご依頼お待ちしております！



「できることから始めていこう」

医療者向けのLGBTQ基礎講座を開催しました

令和4年3月12日、「医療者向けのLGBTQ基礎講座」をオンラインで開催しました。講師をしていただいたのは、にじいろドクターズ理事で医師の山下洋充さんです。にじいろドクターズとは、プライマリ・ケア*に関わる医療者を中心としたコミュニティ。すべての人が公平に健康を考え、享受できる社会を目指し、LGBTQについて適切な知識と態度を学び、共に考える講演やワークショップを開催しています。

*プライマリ・ケア：あらゆる健康上の問題、疾病に対し、総合的・継続的、そして全人的に対応する地域の保健医療福祉機能のこと(日本プライマリ・ケア連合学会 Webサイトより)

「受診をしたいけれど、勇気がいる」「受付で嫌な思いをしたから行きづらい」そんな思いを抱えるLGBTQの方々がいます。今回の講座では、基本的な知識を学ぶことに加えて、医療機関やそこで働く一人一人ひとりができることについて、山下さんからお話がありました。

多様な性のあり方を支持していることを言葉で表現する

パラソルオリジナル
アイ缶バッジ



講座の目標として山下先生が掲げたのが、次の3つとなります。

- 1) LGBTQの患者に対してできることを知り、自身や自施設の課題について意識することができること
- 2) セクシュアリティを決めつけない、適切なコミュニケーションの方法を知ること
- 3) 「アイ」「カミングアウト」「アウトティング」という言葉を知ること

例えば、施設ができることとして、「差別しないこと」の公表はもちろん、1つの例として**トイレの存在**を挙げます。男性/女性用に限らず、「誰でもトイレ」をつくること。1からつくる必要があるわけではなく、車椅子の方向けトイレの名前をそのように変えるだけで良いとします。この取り組みは、LGBTQの人にだけメリットがあるわけではありません。山下さんは「親が自分と性別が異なる子を連れて一緒に入ることができ、しょうがいしゃのケアをする方にとっても嬉しいこと」と語りました。

2つ目の適切なコミュニケーションについては、**相手の性行動や体のこと、背景について勝手な推測をしないこと**の大切さを挙げます。例えばレズビアンの人だから、異性と関係を持ったことがなく、子どもがいないといったことを決めつけないこと。「あなたの家族について教えてもらってもいいですか?」など、開かれた質問で確認することを推奨しました。

3つ目の「アイ」「カミングアウト」「アウトティング」を知ることは、それぞれの言葉について山下さんから説明が行われました。ここでは**アイ(Allies)**について紹介します。LGBTQの支援者、味方であることを意味するアイ。医療機関ができることとして、「多様な性のあり方を支持していることを言葉で表現すること」と語りました。

「アイ」であることを伝えるために

- 「良いケアを提供したいと考えていること」を伝える
- 「より良いケアのために他に何ができるか」患者からのフィードバックを求める
- 誤ったことをしたと気付いたら速やかに謝罪する



やるべきこと、学ぶべきことが多いと感じるかもしれませんが、できることから始める形で大丈夫です。ぜひ一緒にあるべき姿を考えましょう!

「く」にたちレインボープロジェクト

一人ひとりが安心して、自分らしく生きられる地域を目指して

地域の医療施設フレンドリーマップをつくるために
医療者向けのLGBTQ基礎講座を開催!

LGBTQとは、Lレズビアン(女性同性愛者)とGゲイ(男性同性愛者)とBバイセクシュアル(両性愛者)とTトランスジェンダー(性と性別が一致していない)の略称。Qはクィア(クィアコミュニティ)の略称。LGBTQは、セクシュアルマイノリティ全般を指す言葉です。

3月12日(土)
14:00~15:00
@オンライン(Zoom)
無料

講師: (一社)にじいろドクターズ理事
山下洋充氏

今回、講師をしていただく山下さんは、現職の医師の傍ら、にじいろドクターズ理事として活躍されています。ぜひ一緒に学びましょう!

※当日参加できないのに録音データをご覧いただくことも可能です。ご参加の方は事前に問い合わせて先にご連絡ください。質疑応答は、当日の参加者のみの受付となります。オンライン参加のみの受付はご相談ください。

プライマリ・ケアに関わる医療者を中心としたコミュニティ。すべての人が公平に健康を考え、享受できる社会を目指し、LGBTQについて適切な知識と態度を学び、共に考える講演やワークショップを開催しています。

パラソルが目指す地域の医療施設フレンドリーマップについて

「受診したいけれど、勇気がいる」
「受付で嫌な思いをしたから行きづらい」

そんな思いを抱えるLGBTQの方々がいます。パラソルでは、LGBTQの方々が安心して受診できる医療施設を見つけやすいフレンドリーマップを国上市と医療者の皆様とが一緒に考え、一緒につくりたいと考えています。ぜひご協力ください!

難しい対応は必要ありません。どんな配慮ができるのか、まずは研修を一緒に受けてみませんか?

明日からできる 8つの推奨

施設のレベル

- 1) 「LGBTQの患者をケアします」というサインを出す
- 2) 書類をセクシュアルマイノリティの人にも通したものにする

スタッフ-患者関係のレベル

- 3) コミュニケーションの中で適切な言葉を用いる
- 4) 多様な性のあり方を支持していることを言葉で表現する
- 5) 個人情報をごどのように扱うか、患者と話し合う

個人のレベル

- 6) 患者がどのようなことを経験しているか理解する
- 7) 患者の困りごとと、セクシュアリティに関する問題との関連を考える
- 8) 相手が抱えている健康上のリスクに応じて適切な医療を提供する

パラソルには一緒に活動したい、学びたいという市民の団体、学校、個人の方からの声が寄せられています。また、パラソルも市民の皆様とずっとつながり、共に地域を作っていくという想いから「く」にたちレインボープロジェクト」は始まりました。これからも、性別にかかわらず自分らしく生きられるまちを目指して活動を続けていきます。共に活動して下さる方、団体様を募集中です。

パラソルおすすめの本



HEART STOPPER

アリス・オズマン (著) 2021年
トゥーヴァージンズ

ゲイをカミングアウトして、学校でひどいじめを受けたチャーリー。縦割り授業で隣に座った、1つ年上のニックが足の速いチャーリーをラグビー部に誘ったことをきっかけに、2人はどんどん仲良しに。素敵なニックに恋するチャーリーでしたが、ニックもまた、チャーリーへの気持ちが、友だちに向けたものとは違うことに気づき、戸惑いはじめ…。偏見や差別に負けることなく、お互いの気持ちを言葉にし、思いやる2人にあたたかい気持ちになります。



私、夫が嫌いです

大貫憲介 (著) 2022年 日本法令

健全男子のはずの夫が、結婚したら突然いばりだす。夫はそれを愛と呼び、妻はまだまだ頑張れると思っているが「なぜかつライ」関係は続く。モラハラがなぜ起こり、なぜ止まないのか？ 弁護士(著者)の目線で記された離婚方法も一読する価値がある。重くなりがちな話を、4コマまんがやオリジナルな表現で工夫し、読みやすくおすすめ。



「日韓」のモヤモヤと大学生のわたし

加藤 圭木 (監修) 一橋大学社会学部加藤圭木ゼミナール編 2021年 大月書店

K-POPの「推し」を持ち、韓国語を学ぶ人も急増。日本の若い世代にとって憧れの国となったが、日韓の現代史を理解しているファンは少ない。推しの「反日」的な発言に出くわすと「なぜ？」とは思いますが、そこに明確な答えをくれる存在がまわりにいない。そんな日常にモヤモヤした学生たちが、「なぜ日韓はもめるのか？」から慰安婦問題まで、答えを探すために語り合いまとめた本。K-POP好きな若い世代にぜひ読んでほしい。



なんでも見つかる夜に、ここだけが見つからない

東畑開人 (著) 2022年 新潮社

臨床心理士・東畑開人氏による新著。「多様性」という言葉がよく言われ、生き方の選択肢が増えた現代。言い換えれば、一人ひとりが決まった地図のない「自由」の中で人生を決めていく過酷な時代になったともいえると、東畑氏は語ります。そうした時代の中で、迷子になってしまった時に私達はどうすればいいの。本では自分を理解し、他者とつながるための7本の「こころの補助線」を紹介。自由で過酷な社会の生きるうえで大切なメッセージが多く詰まっています。

開催報告 | くにたちレインボー月間

2022年4月29日～5月31日

●パネル展示

「つながろう！くにたちレインボープロジェクト」

●ウインドウ展示

(地域のみなさま、団体からのメッセージや、著名人の名言などを紹介しました。)



開催報告 | くにたちジェンダー平等月間

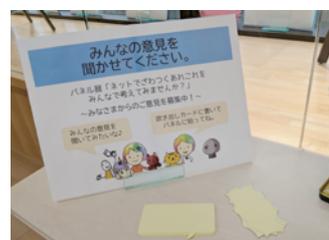
2022年6月1日～30日

●パネル展示

「ネットでざわつくあれこれをみんなで考えてみませんか？」

●6月25日 座談会

「ネットでざわつくジェンダーのことをみんなで話したい」を開催。



出前講座のご案内

●男女平等参画講座

男女平等参画社会とはどういう社会なのか。性別による固定的な役割分担意識から、女性、男性、それぞれの生きづらさについて考えます。

●ドメスティックバイオレンス予防講座

DV（配偶者からの暴力）の現状や取り組みに関する正しい知識を身に付け、「DVをしない、させない、見逃さない」大切さについて学びます。

●デートDV予防講座

デートDV（交際相手からの暴力）について知り、被害者にも加害者にもならないために、お互いを尊重するコミュニケーションを学びます。

●性の多様性・LGBTQ・SOGI講座など

自分らしくあるとは？性の多様性を、じぶんごととして捉え、誰もが自分らしく生きられる社会の構築に向けて、一人ひとりが自分にできることを考えます。

上記以外にもご要望により対応いたします。ぜひご相談ください。

【対象】企業、学校、地域グループなど概ね10名以上

【会場】国立市内

【時間】60分～90分（ご希望により調整いたします）

【費用】無料 ※資料代をご負担いただく場合があります。

【申込】開催希望日の1か月前までにお申し込みください。まずはお電話ください。

講座を開催しませんか？

あなたの企業 学校 グループに
パラソルの講師を
派遣します

実 施 報 告	1月26日	国立市立国立第三小学校 ジェンダー授業
	2月	市内学童保育所 職員向けジェンダー SOGI(ソジ)研修
	3月17日	国立市立国立第五小学校 ジェンダー授業
	5月25日	国立女性教育会館(ヌエック) 令和4年度地域における男女共同参画推進リーダー研修 パネルディスカッション登壇
	6月30日	国立市立国立第二中学校 ジェンダー授業
	7月 1日	手話サークルメープル 性の多様性・LGBTQ・SOGI講座

相談のご案内

家庭、ハラスメント、仕事、人間関係など……「こんなこと、どこに相談したらいいんだろう？」と思われたらまずはお相談ください。相談員による日々のご相談と、弁護士や専門家による相談を、曜日ごとに行っております。

プライバシーは必ず守りますので、安心してお問合せ下さい。

生きかた相談室 (1人50分)

[水曜以外の平日] 10時～18時
[土日祝] 9時～16時
(専門相談の時間を除く)

SOGI相談 (1人50分)

[第2火曜] 16時～18時
[第4日曜] 14時～16時

みらいのたね相談 (1人50分)

[月1回/日祝] 10時～12時
(8/11、9/19、10/10、11/3、12/18、1/9、2/23
詳細はお問い合わせください)

悩みごと相談 (1人50分)

[第3火曜] 11時～14時

法律相談 (1人30分)

[第2・4土曜] 13時30分～16時

相談 TEL 042-501-6996

予約 TEL 042-501-6990

専門相談は
予約制・無料



今年度より水曜日が休館日になりました。ご注意ください



くにたち男女平等参画ステーション・パラソル情報誌 vol.09 2022年8月発行

[発行] 国立市 [企画制作] くにたち男女平等参画ステーション・パラソル

[編集・デザイン] 株式会社シーズプレイス *テキスト・画像の無断転写、転載を固く禁じます。

お問い合わせ

〒186-0001 東京都国立市北1-14-1 国立駅前くにたち・こくぶんじ市民プラザ内

TEL 042-501-6990 FAX 042-501-6991 info@kuni-sta.com

https://kuni-sta.com

kunista kuni_sta kunitachi_sta



HP

アクセス (JR中央線国立駅から徒歩1分)



中央線高架下
国立駅前くにたち・こくぶんじ
市民プラザ内